

笹川保健財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2020年 2月 10日

公益財団法人 笹川保健財団  
会長 喜多悦子 殿

2019年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

住み慣れた地域で自分らしく生きることをテーマに、地域の中での互助活動の推進  
(緩和ケアの普及・アドバンス・ケア・プランニングの普及・健康相談等)

---

活動団体名： 泉谷健やかサロン

活動者(助成申請者)名： 桐ヶ谷 政美

# 活動報告書

2012年2月10日  
泉谷健やかサロン主催  
桐ヶ谷政美

## 1. 活動の内容・実施経過

活動の目的：

住み慣れた地域で、健康に過ごすことができるように、地域の互助活動の推進を図る。  
季節に応じた、健康管理に関する講義及び旬の食づくりを通しての地域住民の交流。

\*1回/月 第2日曜日 自治会館にて開催⇒第1回～第9回案内用紙参照

毎回20名～30名、60歳代～90歳代の地域住民の参加

## 2. 活動の成果

初回の6月23日(日)では、緩和ケア・アドバンス・ケア・プランニングの理解者はゼロだった。毎回の活動を通して、アドバンス・ケア・プランニングの重要性や、日本財団在宅看護ネットワーク発行の「私の手帳」の活用率は70%になった。

2月9日(日)の最終回では、参加者全員がアドバンス・ケア・プランニング(ACP)について、家族と話しあったというアンケート調査での回答が得られた。

また、質的評価として参加者より「とても勉強になる」「毎月集まることで顔みしりになれてよかった」「旬の食をみんなで食べるとことは、一人暮らしの私にとってとても有難いこと」「学んだ知識を活用した」などの声が聞かれた。

## 3. 今後の課題

地域包括支援センター・民生委員と協働を深め、参加できない方に対して、互助活動の推進をどのように図っていくか。

参加対象は「赤ちゃんから高齢者の方々どなたでも」としているが、全9回の参加者には、子供や若い世代の方の参加はなかった。自治会とも話し合い、活動について周知していき、活性化させることが今後の課題である。

## 4. 活動成果等の公表予定

なし